



健康で豊かな国民生活を保健医療福祉情報システムが支えます

JAHIS実証実験2016 説明資料(共通情報編)

JAHISデータ互換性専門委員会

(1) 実証実験の日程、会場

- ・ 日時:2016年9月13日(火)～9月17日(土)午前9時～午後5時
- ・ 場所:東京都立産業貿易センター 台東館(IHE-J コネクタソン会場)

(2) 実施予定テーマ

- ・ 全2テーマ。(患者情報、オーダ情報(処方)／実施情報(処方))
 ※参加状況によって最終決定する予定

(3) 参加予定会社

- ・ 全5社。(富士通、NEC、日立、IBM、SSI)
 ※参加表明待ち

(4) 費用負担

- ・ 実証実験に関わる自社の費用(作業費、旅費、機器費用など)は各社の負担。
- ・ 実証実験会場費はコネクタソン参加費のみとし、参加費は徴収しない。

(5) 問い合わせ

- ・ 今回の実証実験の専用のMLを開設し、そこで連絡事項やQAなどを行う予定。

(6) 今年度の主なトピック

- ・ 処方データ交換規約Ver.3.0C(ドラフト)、JAMI標準用法規格への対応
 - －補足用法コードによる隔日投与、曜日指定、不均等投与の指定
 - －処方実施情報
 - －在宅自己注射
 - －各種コメントの表現方法の変更(RXE-21⇒RXE-7)

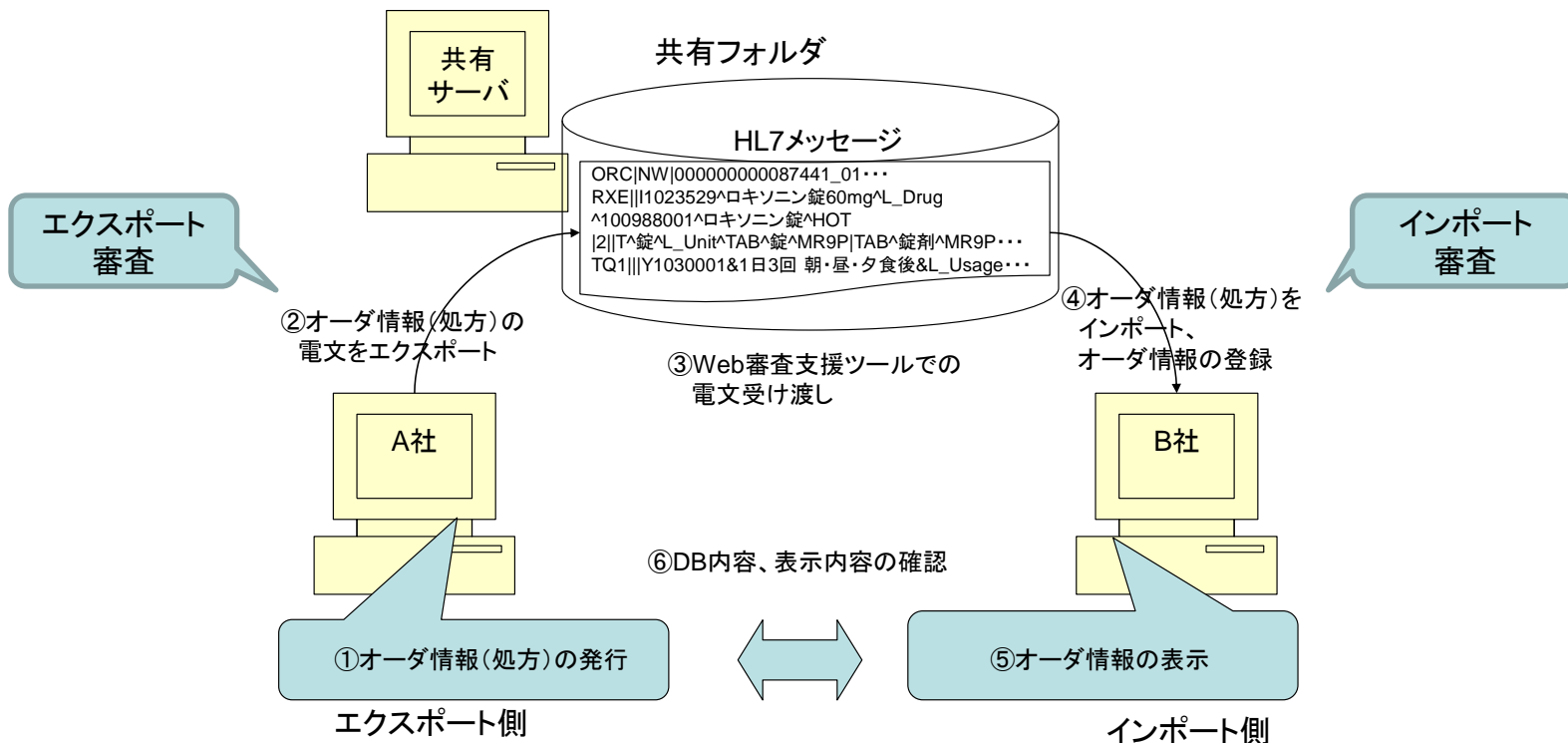
- ・ アレルギー情報の検証(患者情報)
 - －IAMセグメントによるアレルギー情報の表現

- 7月上旬のWGで参加テーマを表明していただき、その場で実施テーマを最終決定する予定

	データ互換性	
	患者情報 ※必須テーマ	オーダー情報(処方)
富士通(株)		
日本電気(株)		
(株)日立製作所		
日本アイ・ビー・エム(株)		
(株)ソフトウェアサービス		

各テーマごとにシナリオを策定し、そのシナリオに沿って実験。

(1) 実験概念図



(エクスポート側)シナリオに沿ってエクスポートした電文ファイルをWeb審査支援ツールを使用して共有サーバの共有フォルダにアップロードする。

(インポート側)同様にしてダウンロードした電文ファイルをインポートし、DB内容、表示内容を確認する。

(2) 判定方法

- 各テストの合否判定
 - 審査支援ツールを使用した審査員による目視(電文、画面、ログ)判定
(審査員は各社から最低1名参加し、自社以外の審査を担当する。)
- システムとしての合否判定
 - 最低3社との相互接続完了で合格(参加会社の少ないテーマは2社でも可。)

(3) 実験結果の反映

実験当日: Web審査支援ツールの画面にリアルタイムで掲示予定

実験後: JAHISホームページ上に掲載予定

(参考) JAHIS実証実験2015の結果

	データ互換性		
	患者情報 <small>※必須テーマ</small>	病名情報	オーダ情報(処方)
富士通(株)	○	○(*)	○(*)
日本電気(株)	○	○(*)	○(*)
(株)日立製作所	○	○	○
日本アイ・ビー・エム(株)	○	○	○
(株)ソフトウェア・サービス	○	(不参加)	○

(*)オプションのシナリオ3を除く

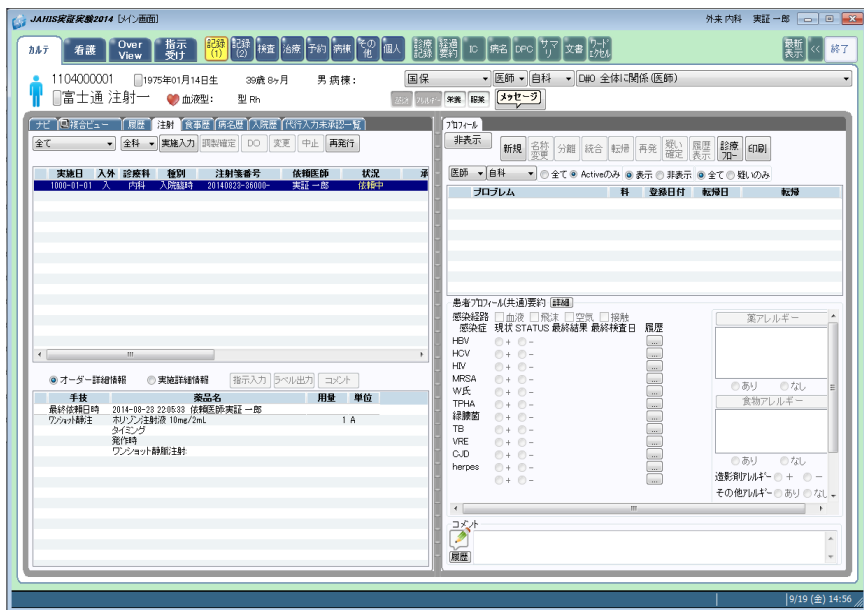
(4) 成果物

エクスポート／インポート共にWeb審査支援ツールにて下記資料を提出

- ・2種類のログ（メッセージ・ログ、アプリケーション・ログ）
- ・自社システムの画面ハードコピー、データベースのダンプ内容

報告書は作成せず反省会で代替する

画面例



メッセージ・ログの例

```
MSH|^~\&||ifProcHL7||RECIEVE||20080205163620.327||ADT^A28^ADT_ZA
1|20080205163620327|P|2.5|||||~ISO IR87||ISO 2022-1994
ZVN||20080205163620|||20004^実証^冬子^~~~~L~~~~^~ハジッショウ^フユコ
~~~~L~~~~P|20070130160934|^1310335068010060^KC16
PID|||1301001^P|||IBM^患一郎^~~~~L^~アイビーエム^カンイチロウ
~~~~L^P|19650415|M|||1038510^H^東京都中央区日本橋崎町19-2
1|13|^PRN^PH^~~~~03-3808-4402~^EMR^PH^~~~~03-3808-
4447^WPN^PH^~~~~03-3808-
4421|||||||||||||N|||20070130160934|^1310335068010060^KC16
...
```

アプリケーション・ログの例

```
02/07 13:30:48 D (C)受信したメッセージの解析結果を
E:\civsv300.std9\bin¥log¥02-1.基本情報-20080207133048-msg-rcv.txt に保
存します...
02/07 13:30:48 I ZVNセグメントを解析しています...
02/07 13:30:48 I PIDセグメントを解析しています...
02/07 13:30:48 I NK1セグメントを解析しています...
02/07 13:30:48 I 解析結果は以下の通りです
02/07 13:30:48 D [基本] 患者ID=/1501001/
02/07 13:30:48 D 患者氏名(漢字)=/SSI 患者基本/
...
```

(1) 参照する技術情報(優先順位の高い順)

1. JAHIS基本データセット適用ガイドライン Ver. 2.2
<https://www.jahis.jp/standard/detail/id=194>

2. JAHIS標準

1) 病名情報データ交換規約 Ver. 3.0C
<https://www.jahis.jp/standard/detail/id=134>

2) 処方データ交換規約 Ver. 3.0C(ドラフト版)

3) データ交換規約(共通編) Ver.1.1
<https://www.jahis.jp/standard/detail/id=125>

3.HL7 V2.5 (アクセスキーでの認証あり)

<http://www.hl7.jp/>

(3) 主な注意点

- 1) インポート審査でエクスポート審査の間違いが見つかった場合の対応は以下の通りとする
 - 1) 審査員ないし審査対象会社が専門委員長に内容を連絡する
 - 2) 専門委員長はテーマ担当者と協議の上、以下の要領で対応方法を決定する
 - ア) HL7規約や参照しているJAHIS標準類の規定、実証実験での取り決めに満たしていない
 - イ) シナリオの目的を達していない(各テーマで基準を明確化する)
 - ウ) 事前に提出したポリシー、データ一覧通りの出力となっていない
 - エ) 他のベンダーのインポートを不当に難しくしている
- ⇒ア)～エ)のいずれかを満たす場合、エクスポート審査をやり直す
- ⇒ア)、イ)のいずれかを満たす場合、それまでのインポート審査は無効とし、インポート審査もやり直す

(3) 主な注意点

- 2) 標準規約、標準マスター以外のCS名はローカル・コードを含め99zzz形式とする。
 - －使用する共通コードのCS名をテーマごとに事前指定。
 - －ローカル・コード用のCS名は各社で任意に指定する。
 - ただし、99Zzz形式でかつ共通コード用のCS名とかぶらないこと。
 - －ローカル・コードのみの出力はNG

- 3) HL7協会の適合性認定での指摘事項に対応する。
 - －住所・区分コードは出力しない。(患者)
 - －ORC-18(入力装置)にコーディング・システム名を出力する。(処方)
 - －RXR-2(部位)ではコード表としてHL70550を使用する。それに伴ってRXR-6(投薬現場モディファイア)を使用する。(処方)
 - －「使用上のルール」に則って審査支援ツールを使用する。

- 4) コード変換する場合、ローカル・コードと標準コードの対応表を別途提出する。
(ポリシー値は○)

(3) 主な注意点

- 5) 備考欄への記載要件は昨年と同様とする。
 - －コメントを含むすべての項目でカタカナ、記号の全角、半角の違いは問わない。(ポリシー値は○)
 - －日付(和暦を除く)、時刻、郵便番号、電話番号のフォーマットの違いは問わない。(ポリシー値は○)
 - －予定時刻の秒の有無や違いは問わない。(ポリシー値は○)
 - －名称をマスターから取得して出力／取り込む／表示する場合は備考欄への記載は不要とする。(ポリシー値は▲)

- 6) 最大長審査を今年も実施する。
 - －「最大長」というダミー会社のメッセージをインポートする。
 - －インポート時にデータが長すぎてそのまま取り込めない場合はエラーリストに出力する(形式は任意だが以下の情報を出力できること)
 - 1) エラー発生日時
 - 2) エラー発生個所のメッセージファイル名と行番号
 - 3) 同じくセグメント名、フィールド番号、成分番号、副成分番号(もしあれば)
 - 4) エラーの内容(コード化することが望ましい)
 - 5) エラーの原因となったデータの値
 - －コメントなど可変長のフィールドのみを審査の対象とする。

(3) 主な注意点

7) 必須フィールドにセットする値がない場合は、代わりに「””」をセットする。

8) その他

－ エクスポート審査時の比較対象は画面ではなくDB内のデータとする。

－ DBの内容を出力するスクリプトの準備を求める。

－ 新たに○にする項目(テーマごとに1個以上)を参加各社が事前に表明する。
(努力目標)

－ 機種依存文字(①、②など)は出力しないこと。

(4) 患者IDの命名規則、桁数

××△△*****

・桁数:10桁

・命名規則

××:会社ごとに割り振る一意な番号(参加会社で一意)

△△:テーマごとに割り振る一意な番号

*****:任意の数字

※××△△は以下の通り

会社ID(上2桁XX)	参加会社名	データの互換性のテーマ	
		①患者情報(基本情報)	③オーダ情報(処方)/実施情報(処方)
		テーマID:01	テーマID:03
11	富士通(株)	1101*****	1103*****
12	日本電気(株)	1201*****	1203*****
13	日本アイ・ビー・エム(株)	1301*****	1303*****
14	(株)日立製作所	1401*****	1403*****
15	(株)ソフトウェアサービス	1501*****	1503*****

(5) 使用する共通マスター 利用者マスター

利用者ID	漢字氏名	カナ氏名	職種
10001	実証 一郎	ジッショウ イチロウ	医師
10002	実証 二郎	ジッショウ ジロウ	医師
10003	実証 三郎	ジッショウ サブロウ	医師
10004	実証 四郎	ジッショウ シロウ	医師
10005	実証 五郎	ジッショウ ゴロウ	医師
20001	実証 春子	ジッショウ ハルコ	看護師
20002	実証 夏子	ジッショウ ナツコ	看護師
20003	実証 秋子	ジッショウ アキコ	看護師
20004	実証 冬子	ジッショウ フユコ	看護師

病棟

病棟コード	病棟名
031	3A
032	3B
041	4A
042	4B

病室(各病棟共通)

病室コード	病室名
01	01
02	02
03	03
04	04
05	05

ベッド(各病室共通)

ベッドコード	ベッド名
1	1
2	2
3	3
4	4

診療科(CS名:99Z01)

診療科コード	診療科名	診療科コード	診療科名
01	内科	21	性病科
02	精神科	22	こう門科
03	神経科	23	産婦人科
04	神経内科	24	産科
05	呼吸器科	25	婦人科
06	消化器科	26	眼科
07	胃腸科	27	耳鼻いんこう科
08	循環器科	28	気管食道科
09	小児科	29	理学診療科
10	外科	30	放射線科
11	整形外科	31	麻酔科
12	形成外科	32	人工透析科
13	美容外科	33	心療内科
14	脳神経外科	34	アレルギー
15	呼吸器外科	35	リウマチ
16	心臓血管外科	36	リハビリ
17	小児外科	90	歯科
18	皮膚泌尿器科		
19	皮膚科		
20	泌尿器科		

(6) エクスポートファイルのファイル命名規則

<会社ID><会社英名>_<テーマID>_<シナリオNo>_<データ内容>.hl7

※会社ID,会社英名は以下の通り

会社ID(上2桁XX)	参加会社名	英名
11	富士通(株)	fujitsu
12	日本電気(株)	nec
13	日本アイ・ビー・エム(株)	ibm
14	(株)日立製作所	hitachi
15	(株)ソフトウェアサービス	softs

※テーマIDは以下の通り

テーマID	テーマ名
テーマ01	患者情報
テーマ03	オーダ情報(処方)

※シナリオNoは、「シナリオ1」「シナリオ2」「シナリオ3」「シナリオ4」のいずれか

※データ内容は、以下の通り

データ内容	データの内容
患者	患者情報
処方	オーダ情報(処方)/実施情報(処方)

※アップロード時はWeb審査支援ツールがこの命名規則に沿って自動的にリネームするので、手元のファイルの名前は気にしなくてよい。

※例:IBMがオーダ情報(処方)のテーマのシナリオ3で出力した最新の患者情報の場合

「13ibm_テーマ03_シナリオ3_患者.hl7」

(1) 実証実験専用メーリングリストの利用方法

質問に合わせて表題を下記規則に従って記載

- ・ 共通情報編 → 【共通】
- ・ データの互換性 → 【テーマ名】
- ・ その他事務連絡 → 【その他】

(2) 実証実験に関する主なイベント

- 7月8日(金) 説明資料読み合わせ(本日)
- 7月29日(金) ML登録ユーザー一覧提出(メール)
- 7月29日(金) 参加テーマ表明
- 8月上旬 実証実験用ML開設
- 8月5日(金) 事前検証ツールの配布
- 8月24日(水) ポリシー、データ一覧の事前提出期限
- 9月5日(月) 事前審査結果の個別フィードバック
- 9月9日(金) 審査員担当予定表の提出
- 9月13日~9月17日
実証実験本番
- 10月9日(仮) 反省会(データ互換性専門委員会にて)
- 11月中旬 JAHISホームページへの結果掲載

(3) 参加会社への依頼事項

1. ML登録ユーザー一覧の提出(※)(7月29日)
2. 参加テーマの表明(7月29日専門委員会)
3. 以下の情報の事前提出(8月24日)
 - －エクスポート・ポリシー、インポート・ポリシー(「ポリシー一覧」シート×テーマ数)
 - －エクスポート・データ一覧(「データ一覧」シート×シナリオ数)
 - －標準コード、ローカルコード間変換表
 - －新たに対応する項目
4. 審査員担当予定表の提出(9月9日)
5. 個別フィードバックへの対応(実証実験当日まで)
6. 審査用 Note PCの持参(実証実験当日)
 - －無線LAN対応推奨
 - －Microsoft Officeが導入されていること(2010以上を推奨)
7. 反省会への積極的な参加(10月7日(仮))

※会社単位でメールにて日立山口専門委員長(keita.yamaguchi.qj@hitachi.com)まで送付してください。

(4) 作業場所、電源、IPアドレスなど

IHE-Jコネクタソン用に各社で確保したものの中でまかなう。
実験用機器および審査用PCのIPアドレスは業務用として余分に申請する。